

## 令和4年度シラバス (地理歴史)

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史 (世界史研究)	単位数	2単位	学年(コース)	5学年(国際文化コース)
使用教科書	東京書籍『世界史A』 実教出版『高校現代社会新訂版』				
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』、山川出版社『新版世界史Bマスター問題集』、山川出版社『詳説世界史B』				

### 1 学習目標

急速にグローバル化が進む世界において必要とされる普遍的かつ国際的な視点を養う。また、複雑化する現代の世界を理解するための、実際的な知識と思考力、洞察力を身に付けることで、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### 2 指導の重点

- ① 単元ごとの課題プリントで知識の定着を確認します。
- ② 夏休み中の課題についても評価に加えます。
- ③ レポートの提出により、学習目標の到達度を評価します。(小レポート・学年末)

### 3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西ヨーロッパ世界の成立</li> <li>・ヨーロッパの主権国家体制</li> <li>・世界商業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15世紀末からの「大航海時代」によって、世界の一体化が始まったこと、ルネサンスと宗教改革によりヨーロッパの文化的、宗教的価値観が変わったことを理解する。</li> <li>・17世紀後半から重商主義と呼ばれる国家経済の概念を持った政策を行うようになったこと、そのために有力国家が植民地を求めて、ヨーロッパ内外で抗争を繰り返したことを学ぶ。</li> </ul>	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> <li>・課題考査</li> <li>・定期考査</li> </ul>
7 8	一体化に向かう世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの伝統的諸帝国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴル帝国の崩壊後に、アジア諸地域には今日の世界の原型となる諸原型となる諸国家が成立したことを学び特色ある文化が発展したことを知る。</li> <li>・中央アジア・西アジアで栄えたティムール朝、ビザンツ帝国を滅ぼしたオスマン帝国、イランのサファヴィー朝、インドのムガル帝国について学ぶ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> <li>・課題考査</li> </ul>
9 10	欧米諸国における国民形成 欧米における近代国民国家の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィーン体制</li> <li>・南北アメリカの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀後半に起こり、欧米の外部世界に対する優位を決定づけることとなった「二重革命」すなわち、産業革命とアメリカ独立革命、フランス革命について学ぶ。</li> <li>・ナポレオン没落後の19世紀前半に、今日のヨーロッパ諸国家に直接つながる諸事象が現れてきたことを理解しながら、中南米の独立の経緯を学ぶ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> <li>・定期考査</li> </ul>
11	アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オスマン帝国</li> <li>・インドの植民地化</li> <li>・中国分割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの諸帝国が次第に弱体化して、欧米諸国により、植民地化される経緯について学び、西欧化により列強に対抗しようとする動きや宗教など非西歐的価値観と体制を維持する動きも学ぶ。</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> <li>・定期考査</li> </ul>

12 1	帝国主義とアジア の民族運動 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界分割</li> <li>・アジアの民族運動</li> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・第二次世界大戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米列強が第二次産業革命の進展により、植民地の一層の拡大に迫られ、帝国主義が成立したことを知る。一方、列強の国内では資本家と労働者の緊張が高まり、労働運動が活発化したことを学ぶ。</li> <li>・帝国主義の激化により第一次世界大戦が勃発、総力戦を遂行できなくなったロシア帝国が崩壊し、史上初の社会主義革命が成功したことを理解する。</li> <li>・世界恐慌を契機にファシズムが台頭したことを理解し、ファシズム国家と反ファシズム国家の対立が再度の世界戦争になったことを学ぶ。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>
2 3	冷戦と第三世界 の独立 現在の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合</li> <li>・冷戦</li> <li>・石油危機</li> <li>・地域紛争</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後世界秩序の形成とアジア・アフリカ諸国の独立について理解し、世界経済の再編について学ぶ。</li> <li>・地域紛争の激化や深刻化する貧困について理解し、今後の世界形成に何ができるか考える。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> <li>・定期考査</li> </ul>

計 70 時間 (50 分授業)

#### 4 課題・提出物等

1. 単元ごとの課題プリントで知識の定着を確認します。
2. 夏休み中の読書課題についても評価に加えます。
3. レポートの提出により、学習目標の到達度を評価します。(小レポート・学年末)

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の歴史に対する関心を高め、文化の多様性と現代世界の特質を意欲的に追究するとともに、多角的かつ柔軟な見方で広い視野から世界の動きをとらえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較文明的視点から世界史をとらえ、その中に日本を位置付けて考察する。</li> <li>・政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から世界史の諸事象を捉え、その歴史的意義を公正に判断する。</li> <li>・考察した過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した世界史についての絵画・地図年表・統計等の諸資料を、客観的に見つけ、使用できている。特に、近現代史においては、各国が置かれた歴史的立場に配慮し、公正な視点で資料を活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史の大きな枠組みと流れを日本史とも関連付けながら理解する。</li> <li>・政治、経済、社会、文化、生活等様々な観点から世界史の諸事象を理解し、その基本的知識を身に付けている。</li> </ul>
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題提出率 などから、総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

1. 4年次に学習した世界史知識をさらに深く理解するとともに、現代社会の知識と関連づけながら、大学受験の記述問題、小論文問題等に必要とされる学力を養う。
2. 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、教師の解説をよく聞いてメモを取り、自分なりのノート作りを行いましょう。
3. 目標とする大学によって、学習方法が違ってきます。各自で適切な問題集を購入するなどの工夫をしましょう。  
(担当：樋口紗和子)